

躍進

Y A K U S I N

No. 13

株式会社 加藤組社内報「躍進」

発行日／平成3年8月15日

発行／株式会社 加藤組

男鹿市脇本脇本字向山18-6 TEL (0185) 25-3001(代)
FAX (0185) 25-2234

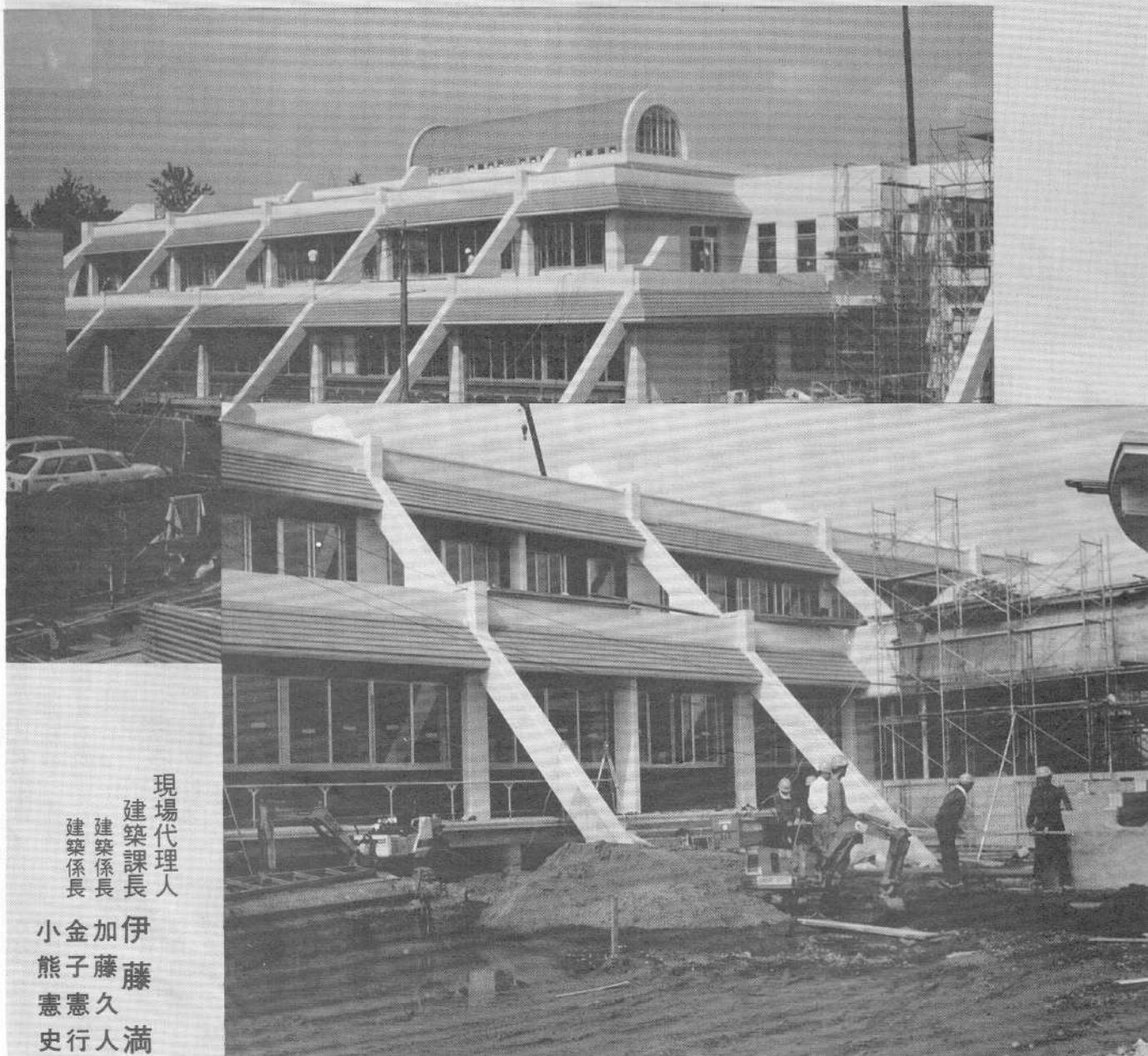


KATOGUMI CO.,LTD

株式会社 加藤組

光飯商事株式会社 日本アスコン株式会社
秋田ブロック工業株式会社 秋田建設運輸株式会社

竣工を待つ 秋田県生物資源総合開発利用センター建築工事



現場代理人

建築課長

建築係長

建築係長

伊藤 久満
加藤 憲久
金子 行人
小倉 史

現場の皆さん、苦労様

建設業を語る

女性社員座談会

最近、建設業に対する世論が厳しくなっています。危険で、労働がきつく、泥まみれになって等々、若者は建設業と聞いただけで就職のリストから除外してしまうという傾向があり、新規学卒者の求人もままならない状況になっております。

当社には、多くの若い女性社員が執務しておりますが、彼女らが、建設業のなかにあつて、建設業をどうみているかを、縦横に活発に話合つてもらいました。

女性も現場へ

行きましよう

司会 先週、女性の皆さんに現場見学をしてもらいました。その時の感想から聞かせて下さい。

A 私たち、建設会社に勤めておりながら、現場に行く機会がほとんどありませんでしたが、短時間でも現場を見せてもらい、大変勉強になりました。

B 毎日、書類のうえでは、工事名とか、工種とか、機械の名前なんかいろいろ見たり聞いたりしていますが、実際に現場を見れば、ああこれか、などと親しみがわいてきました。

C 百聞は一見に如かず、というじゃない。知識より体験だわね。

H 現場の人たちは、朝早くから夜おそくまで大変ね。それに日曜日もでているというし。

- D 現場で働いているときの顔は、本社で見る顔とは全然違いますね。
- A 男らしいということね。
- D そう。素晴らしいわ。
- E 私たちが行ったので、他所行きの顔をしたんじゃないかしら。
- D まさか。眼が厳しいといつたらいいか、輝いているといつたらいいか。
- F 現場の人たちの苦労がわかりますね。
- G 私たちが現場を理解し、現場の人たちが事務のことを理解してくれば、スムーズにいきますね。
- C 事務は事務、現場は現場では駄目ね。
- H 現場の人たちは、朝早くから夜おそくまで大変ね。それに日曜日もでているというし。



高野 智美さん (OA課)
加藤 洋子さん (商事課)
渡部 美穂子さん (OA課)
児玉 和子さん (業務課)
加藤 真由美さん (秘書室)
三浦 久美子さん (総務課)

J 仕事の割り人に人が少ないんじゃないかしら。

B 私たちが現場へ行つて手伝う自信もないしね。

A 現場へ行かなくても、事務的なものを全部引き受けてあげれば安心でしょうね。

C でも、現場の人たちが勝手だと思ふこともあるわ。

J ある、ある。期限が過ぎて書類をださなかったり、

F 大丈夫よ。自信をもつべからし。

A たまには現場ハウスの整理整頓を手伝ったり。

L 行けば張り切ってくれるかしら。

F 大丈夫よ。自信をもつべからよ。

H それは初めて近くで見たからよ。

G だって危険でしょう。

J 動いている機械に近寄らなければ安全よ。

B 私はよくわからないけど安全基準というものがあるでしょう。それを守れば安全なはずよ。生意気をいってごめんさいね。

A 現場で負傷した時の話を聞くけど、あとで考えればどうしてそんなことをしたのかと思います。

E そこが大切ですね。自動車の運転でも皆がルールを守れば事故はないわけだし。道具は扱い方次第ですね。

A それに、この間の安全大会で監督署の方がいった

きよ。私たちは安全を運ぶ女神なんだから。

C そうね。そう思ってもらわなくちゃ。

建設業に自信を持ちましよう

司会 建設業はK(キケン、キツイ、キタナイ)といわれて、若い人から敬遠されがちですが、女性から見るとどうですか。

G バックホー、実は先週おぼえたばかりだけど、あれがうなり声をあげて作業をしているのを見れば、怖い感じがします。

H それは初めて近くで見たからよ。

G だって危険でしょう。

J 動いている機械に近寄らなければ安全よ。

B 私はよくわからないけど安全基準というものがあるでしょう。それを守れば安全なはずよ。生意気をいってごめんさいね。

A 現場で負傷した時の話を聞くけど、あとで考えればどうしてそんなことをしたのかと思います。

E そこが大切ですね。自動車の運転でも皆がルールを守れば事故はないわけだし。道具は扱い方次第ですね。

A それに、この間の安全大会で監督署の方がいった

けれど、自動車事故のほうが多すぎます。

B そうよ。建設業をキケンキケンというのは偏見もいところよ。

K 私たち内部でマスコミの片棒を担ぐのはだめね。

L 建設業では、いろいろな機械や道具を使っているから、そんなにキツイものじゃないと思いますけど。

G プルドーザー、これも先週おぼえた名前、これを一日中運転するのは大変なそうよ。

E 振動がひどいって。

J それにクレーンもないし、冬の暖房だってどうかしら。

L あつても寒いでしょうよ。

C それを乗り越えていく若さと体力と頑張りには魅力を感じませんか。

A キツイといつたって、どんな仕事だって肉体的か精神的かは別としても、一生懸命やればみんな大変よ。

F 私なんか精神的にキツイ仕事はいやだわ。

H 身体の疲れは回復しやすけれど、精神的な疲れはね。

E 仕事を間違えてどなられても、カラッと叱られたときはいけど、陰気な叱り方を上司もいるのよ。

F そういう疲れはいつまでも残るのよ。むしろ作業現場で泥まみれになっている

現場レポート

戸賀湾を護る

港湾防災、地方港湾改修事業 土木主任 夏井直弥

工事概要
 捨石 1,399m³ (延長40m) テトラポット (3.2t) 製作 454個 据付 861個
 防波堤延長 10m
 方塊ブロック(30t)製作18個、据付70個
 消波工 六脚ブロック、異型ブロック据付
工事期間 (海水浴期間中、一部作業休止)
 5月20日から11月29日まで

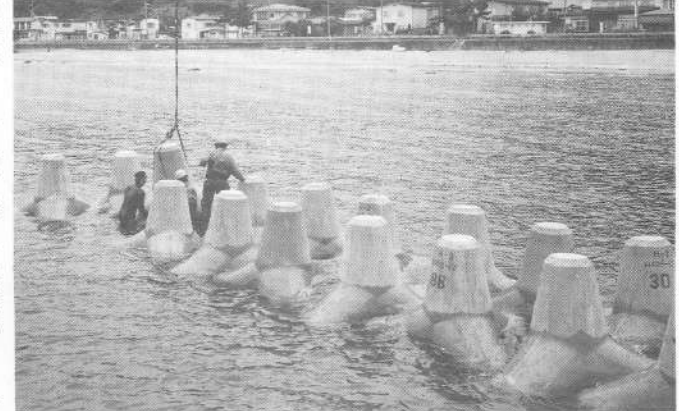


私が戸賀湾の仕事を委せられるようになったから、早くも四年経過しました。始めの頃は、毎年同じような仕事が続く、単調で仲々フアイトが湧かないようなこともありました。が、会社の大事な仕事であると同時に、戸賀の地域のため、新しい戸賀湾を作り、育てるという観点にたてば、考え方も数歩前進し毎日が充実した気持ちで仕事ができるようになりました。戸賀湾は、湾といつても、内海という感じは少なく、直接外洋に続いているため、天然のままでは、漁港としても海水浴場としても、いまひとつという状況です。そこに港

湾防災、港湾改修事業の意義が高いのです。事業の柱となっているのは、海水浴場の砂浜の先に、テトラポットによる長さ百mの消波工を連続して設置するものと、湾北側の防波堤の構築と埋立て等です。今年度の事業は四十mの消波工と十mの防波堤工事です。テトラポットや、三十屯方塊ブロックの据付けは、出来上がったところを見ればなんでもないようですが、その基盤作りである捨石、均しは海中作業であり、文字どおり一般の人には見えない苦労があります。昨年、この作業で協力業者の作業員が、海中でテトラポットに手をはさまれて怪我をいたしました。



現場代理人として仕事が計画どおり進むことは当然ですが、なによりも無事故で完成させたいと日夜苦心しています。それと台風など自然との闘いがあります。なにしろ、日本海から直接押し寄せてくる自然の力に



湯本地内の県道改良三件
 工期 四年三月十日
 現場代理人 石川 守
 〃 荒木 聡
 〃 佐藤雅宜
 ● 追分舗装維持修繕工事
 国道七号線の舗装
 工期 八月十六日
 現場代理人 佐藤雅宜
 ● 男鹿周辺海域礁設置工事
 タートルブロック製作据付
 工期 十月三十一日
 現場代理人 三浦喜代見
 ● ふ頭用地造成工事
 消波ブロック据付
 工期 九月三十日
 現場代理人 小野俊剛
 ● 大潟村営住宅建設工事
 木造住宅六棟の建築
 工期 十月二十五日
 現場代理人 加藤久人
 ● 海岸局部改良工事
 護岸の補強二四四m
 工期 十一月二十九日
 現場代理人 成田義則
 ● 岩沢工用道路工事
 東北横断自動車道工事
 工期 四年八月三十一日
 現場代理人 原田康文
 ● 海岸防災林造成事業
 六脚ブロック製作据付
 工期 十二月十日
 現場代理人 伊勢谷寿
 ● 重要港湾改修工事
 浚渫約一万四千m³
 工期 四年三月十日
 現場代理人 小野俊剛

現在実行中の 主なる工事現場

● 堀内道路改良工事
 工期 十二月十日
 現場代理人 渡部邦明
 ● 地方道舗装新設工事
 天王町蒲沼地内の県道
 工期 九月三十日
 現場代理人 伊勢喜久仁
 ● 緊急地方道整備工事

人事異動

● 二田 駒内 工事
 立入禁止柵ほかの新設
 工期 九月九日
 現場代理人 松田寛治
 ● 生物資源センター外構工事
 構内舗装その他
 工期 八月二十日
 現場代理人 石川 守

（株）加藤組 3.6.1付

● 内田 透
 土木部副主任
 ● 下間 正
 建設機械主任
 ● 山下 忠雄
 建設機械主任
 ● 安田 兼義
 建設機械副主任
 ● 鈴木 正美
 三浦 秋広
 建設機械課勤務
（株）日本アスココン
 ● 鎌田 定光
 機械課機械主任
（株）秋田建設運輸
 ● 鈴木 一秋
 ● 高橋 寅之助
 ● 加藤 敏雄
 ● 薄田 正幸
 秋田建設運輸勤務
 ● 船木 一美
 準社員に登用
 秋田建設運輸勤務

3.6.1付 3.6.1付

新入社員



すぎもと みつこ
杉本三津子

昭和47年8月15日生
秋田商業高等学校卒
趣味 音楽鑑賞 書道
配置 総務部総務課
私のひとこと
当社にお世話になってから早くも四カ月が過ぎました。入社した頃は、見るもの聞くものすべてが初めてのものばかりで、戸惑いの連続でした。新しい仕事を教わり、それをよく理解しないうちに次の仕事に移り、社員の方々の名前も仲々わからず、来客の応対でも、どこのどなたかわからないなど、一日がどんどん過ぎてゆく感じでした。このようなときは、机に向って勉強していた高校時代の方が、たとえテストで苦しめられても、その方が楽だったと思つたものでした。

しかし、四カ月過ぎたいまは、仕事の内容もいくらか覚え、電話や来客の応対も慣れました。まだまだ頼りないと思いますが、一生懸命頑張りますのでよろしくご指導をお願いします。



まつだ かんじ
松田寛治

昭和18年3月30日生
秋田経法大附属高等学校卒
趣味 旅行
配置 土木部土木第二課長
私のひとこと
六月十五日、JRからの出向で当社に入社しました。

秋田市土崎港の生まれで、高校卒業までそこで育つた関係で、港祭りには目がなく、太鼓の音が聞こえてくると自然に身も心もウキウキしてしまいます。昭和三十九年に国鉄に入社し、秋田、青森、山形の三県で、主として保線関係の仕事に従事してきました。趣味は旅行で、全国の主要観光地で、山陰地方以外はほぼ

社員の動き

新入社員は ダイヤモンド・エッグ

社員登用



ひろし よしだ
木義博

昭和23年7月23日生
昭和46年5月1日入社
建設機械課建設機械係長
私のひとこと
社員に登用され、こんなに嬉しいことはありません。今までとは身分も違いますから、決意を新たに、責任感をもって一層頑張る覚悟であります。どうぞよろしく。



たかくわ みかこ
高桑美香子

昭和43年4月25日生
平成元年8月20日入社
総務部総務課勤務
私のひとこと
社員に登用していただき、ありがとうございます。高校卒業後、静岡県の会社に就職しましたが、郷愁にかられて三年目にUターンしました。その後、加藤組に採用していただき、丁度二年になりました。仕事はまだ一人前になって

とんど行っております。当社は、若い人が多く、会社全体が明るく活力があると思います。私も発展性のある加藤組に入社できたことを光榮に思い、一生懸命頑張つて参りたいと思っております。

準社員登用



ふなば かずみ
船木一美

昭和34年4月27日生
昭和61年3月20日入社
秋田建設運輸勤務
私のひとこと
不言実行が私の座右の銘ですが、不平不満をいわずに頑張つた甲斐がありました。一生懸命仕事をするには、作業員でも準社員でも同じかもしれません。やはり身分が安定するということは、仕事に向う決意が違いますので会社のご期待に応えられるよう頑張ります。

秋田市の生まれで、高校卒業までそこで育つた関係で、港祭りには目がなく、太鼓の音が聞こえてくると自然に身も心もウキウキしてしまいます。昭和三十九年に国鉄に入社し、秋田、青森、山形の三県で、主として保線関係の仕事に従事してきました。趣味は旅行で、全国の主要観光地で、山陰地方以外はほぼ

人事異動

(株)加藤組 3・1・7付

●船木 金次
技術管理部長

●梁田 耕次
社長室部長(兼務)

●長谷川 由造
営業部次長

●杉本 三津子 3・4・1付
社員に採用
総務部総務課勤務

●夏井 勉
業務部長(兼務)

●伊勢谷 健一郎
業務部長代理

●光飯商事(株) 3・1・7付
伊藤 剛樹
総務部長代理(兼務)

(株)加藤組 3・6・1付
●滝本 史郎
技術管理本部長
●伊藤 満
土木部建築課長
●金子憲行
土木部建築係長
●加藤 久人
土木部建築係長
●伊勢谷 寿
土木部土木課長代理
●小野 俊剛

●三浦 喜代見
土木部土木課長代理

●荒木 聡
土木部土木係長

●渡部 邦明
土木部土木係長

●門脇 敏男
土木部土木係長

●佐藤 雅直
土木部土木主任

●成田 義則
土木部土木主任

●原田 康文
土木部土木主任

●三浦 久美子
総務部総務主任

●鈴木 義博
社員に登用
建設機械係長

●高桑 美香子
社員に登用
総務部総務課勤務

●松田 寛治
社員に採用(JRから出向)

●米屋 真一
男鹿工場長代理

●児玉 和子
業務課副主任

●高桑 広貴
OAシステム主任

●光飯商事(株) 3・6・1付

加藤杯奪 選抜少年野球

男鹿東中 悲願の初優勝

第十三回を迎えた加藤杯争奪選抜少年野球大会は、六月九日、梅雨晴れの加藤球場において開催されました。今年、秋田東中、羽城中、峰浜中と地元の名門校が、実力伯仲の熱戦が繰り広げられ、過去五回も準優勝に甘んじていた男鹿東中学校が、悲願の初優勝を遂げ真紅の優勝旗を手に入れました。

沢田専務から優勝旗を授与



チーム	1	2	3	4	5	6	7	計
男鹿東	3	1	0	0	0	0	0	4
羽城	0	0	0	0	0	1	1	2

六時三十分から宴会。武田会長から「日頃の労をねぎらい、ゆっくりくつろいで下さい」との挨拶のあと乾杯になりましたが、湯あがりのビールは味が格別で、日頃のストレスがどこかへ飛んでいったかのように感じました。また、二次

完成してから一年そこそこの新しいリゾートホテルで、テラックスな大浴場には、サウナ、泡風呂そして露天風呂があり、この上なく設備が整っており、ゆっくり入浴し、一日の疲れがすつかりとれた感じでした。

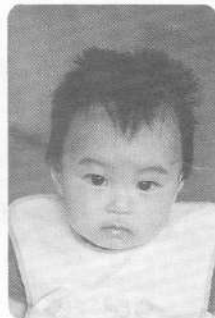
今回の旅行では、近年まれにみるすばらしいホテルに泊まれたこと、いくつかの名所、観光地へ立ち寄ることができ、極めて有意義な旅行だったと思います。

なにはともあれ、事故もトラブルもなく無事帰ることができて、ほっとしています。

あさみ 麻美ちゃん
平成三年二月四日生



こうだい 昂大ちゃん
平成三年一月二十五日生



OAシステム開発課
小山田定昭さんの長男

男鹿東中は、初回到満塁のチャンスを迎え、七番太田が期待に応えて走者一掃の三塁打を放って三点を先取し、続く二回にも一点を追加してそのまま逃げきった。

一方、羽城中は、コーナーを丁寧につく男鹿東中の三浦投手に手こずり、零行進が続き、六回と七回に相手内野のエラーで一点ずつ得点したが僅差で惜しくも涙をのんだ。

初優勝を飾った男鹿東中の小山田監督は「初回の三点で全員がリラックスでき、練習どおりの野球ができたのが勝因。大変嬉しい」と感想を述べ、また、二試合に完投した三浦投手は「先頭打者を塁に

青藤会 合同旅行に参加して

総務部長代理 伊藤剛樹

青藤会、協力会の合同研修旅行は、六月十五・十六の両日に実施されました。

今回の目的地は、岩手県の大沢温泉です。

八時三十分、本社前を出発したときは、どんよりしていた

ださないうち注意したことと力まないでコーナーをついたのがよかった」と自らの投球を冷静に振り返っていました。

(伊藤剛樹 記)

た空も、北上付近から青空が広がり、絶好の旅行日和になりました。

昼食後に水沢競馬場へ立寄り、男鹿では見ることでできないサラブレッドの勇姿に感奮しました。

夕刻、宿泊地である大沢温泉ホテル渡りに到着しました。



翌日は新花巻駅前にある宮沢賢治記念館を訪れました。当社道場にある「雨ニモマケズ」の作者で、農業の指導者という程度は知っていましたが、絵を描き、童話を作り、地質学者など多彩な人物であることを知り、展示物やスライドを見終えると、何か彼の世界がぼんやりとわかるような気がしました。

こんにちは 赤ちゃん

社員にかわいい赤ちゃんが生まれました。

これから、当社も男鹿市も背負って立つ人材に育つよう、皆んなで、やさしく見守ってあげましょう。

目指せ！^{ゼロ}優良事業場 平成三年度安全大会実施

人命尊重、安全最優先を重点目標に掲げてスタートした平成三年も半分経過し、折返し点になりました。この間、ヒヤリ、ハットは二〜三件あったものの、幸いにも災害にいたりませんでした。後半は幸運を期待しないで、真から安全を確保する。ため、七月五日の安全大会では、「みんなで決意みんなで努力、前進させよう職場の安全」を全員で声高らかに唱和しました。



来賓祝辞のなかで加藤先生からは、安全確保のため

今年度の安全大会は、従業員百名、協力業者四十社が出席して行われました。昨年は労働災害七件、物損事故九件も発生し、最悪の年でした。それによって今年度は秋田労働基準監督署からは重点指導事業場（通称店社指定）の適用を受けることになりました。



大会の冒頭に社長は、安全確保に消極的であってはならない

悪い動作をしなければ大丈夫という消極的な態度ではなく防災の対策を開発しようとする積極的な態度が望ましい。単に法規制を守るのではなく自分で実践するという当社の安全五カ条の精神を忘れてはならない。と訓示しました。

安全講話は、秋田労働基準監督署第三方面主任監督官の角間崎栄悦氏にお願いしました。講話の要旨は次のとおりです。

安全講話要旨

労働災害のなかで建設業が占めている割合は極めて高い。就労人口は全体の八割でありながら、事故件数割合は二九%にもなっている。そのなかで相変らず転落事故が多



い。それも意外に低いところからの転落で受傷しており、「一メートルは一命を取る」という言葉もあります。高所作業はもちろんですが、低いからといって油断しないで作業してもらいたい。

交通事故死が、昨年度初めて全産業のトップになりました。自動車運転が日常茶飯事となっているだけに、特に慎重運転が大切である。

災害防止対策は、経営者の考え方を現場の監督者がしっかりと引き継ぎ、作業者一人ひとりに徹底させなければなりません。加藤組の場合、安全管理体制、現場の設備などはしっかりと行っている。また、安全目標の設定、安全ニュースの発行など、形の上では整っているが、昨年の例でもわかる

おり災害が多発している。このことは経営者、監督者の考え方が作業者個人まで浸透していないためではないかと思われる。加藤組の場合、この点を再検討し、部下に守らせるためには自分でも決まらなければならないこと、安全には妥協は禁物であるという考え方を基盤にして指導すれば、模範的なゼロ災職場になれるものと思う。

作業者も、KYT（危険予知訓練）を通じて、上からの指示、指導に頼るだけでなく自らの作業動作をよく見つめて災害防止に努めていただきたい。



協力業者による安全発表は、千葉電業舎の社長さん

お願いしました。

千葉電業舎は、文字どおり電気関係の工事一切を実施してくれていますが、電気の安全について社長さんは「電線に触れないことです」と簡潔に、明快に教えてくれました。

今、私たちの周囲を見て電気のない生活は考えられませんが、それほど身近かな電気なだけに、慣れと好奇心から、つい裸の電線に触れてみたいという不用意な気持ちがあるのです。

表彰された方々

この大会で表彰された方は、従業員四名、協力業者二社でした。表彰された方々に心からお祝い申し上げるとともにこの表彰を機に現場の安全活動の推進役になることを期待します。

ダンブや大型機械の運搬などでは、高さの誤認から電線や信号器に触れることがありますが。また、道路工事では埋設ケーブルを損傷することがあります。こういう場合は素人の生兵法で処理せず、専門家をお願いするのが肝要です。皆さん、無事故へ前進!!



山下忠雄さん (機設機械主任)

建設機械を永年にわたって無事故で運転し、他の運転者の模範になっている。



児玉和子さん (業務副主任)

生コン車の配車を円滑に行い、無事故運転の基盤作りをしている。



天喜建設株式会社様
男鹿市船越字杉山168-1



合資会社 千葉電業舎様
男鹿市船川港化世沢176-25



貝田操さん (土木課)

女子作業員を中心になって現場の融和と安全活動の推進に貢献した。



天野孫友さん (土木課)

安全重点事業場に指定された小浜の現場で、作業員の先頭になって無災害を達成した。

加藤組のあめみ⑬

加藤義祐 加藤組元社長
伊勢健悦 協力会初代会長

の思い出

加藤義祐元社長（現社長の祖父）が死去されたのは二十五年前の七月二十五日でした。明治二十一年生まれですから、いまご存命ならば百三歳ということになり、七月二十五日の命日は、十年前に亡くなられた妻知恵さんの誕生日で、このことから、お二人は何か強い絆で結ばれていたのではないかと思われます。その頃、物品倉庫は社長宅の敷地内にあって、倉庫番が留守のときは、社長から直接確認されますが、社長は優しさのある反面、眼鏡越しの鋭い眼は、すべてを見徹す威力があり、間違ったりすると怒

鳴られたものでした。あるとき、例によって私を呼ぶので、何かかと思つて行ったところ、コップを差出して、いきなりこれを飲めといいました。中味は酒なので、勤務中だから飲めません、というのと、それじゃ物品の持ちしならん、といわれ、とうとう酒を飲まされたことなど、懐しく思い出されます。厳しく茶目ッ気のある方でした。元社長の亡くなられた年に協力会が誕生しました。当時、会社の年間完成工事高は一億五千万円前後、従業員は男九七名、女五八名で、日当は男千円、女は五五〇円

であったと記憶しています。お互いが各現場に配属されているため、全員が顔を合わせる機会もなく、何かよい方法はないかと思案していた頃で、亡くなった伊勢健悦さんと私の二人で、会社の経営のこと、労使関係のあり方、従業員の技術向上、福利厚生、親睦など、会社と一体になつてやるために、会を作ろうということになりました。規約作りや、設立総会の準備など、いろいろ苦労しましたが、その年の十二月二十四日、男鹿温泉郷で百四十名の参加のもとに「協力会」が発足し、初代会長に伊勢健悦さ

が推挙されました。昭和四十二年という年は、社長の死という悲しいこともあったわけですが、協力会の新しい門出の年でもありました。また、私の長女も生まれました。私にとって忘れることのできない記念する年になりました。本号が皆さんのお手元に届くのは、丁度お盆です。会社のためにご尽力され、すでに鬼籍に入られた方々に対し、感謝の気持ちをこめて供養したいと思ひます。加藤義祐元社長、伊勢健悦協力会初代会長のご冥福をお祈りします。（専務取締役 沢田正司）

紹介リーフレット

土木主任 伊藤新次郎さん一家



妻 歌子さん（43歳）
長女 美代子さん（高2）
次女 友紀子さん（中3）

伊藤新次郎さんは昭和四十八年に当社に入って以来、舗装工事ひと筋に頑張つてきました。入社して間もなく、近くに住む歌子さんと結婚しましたが、次男坊である新次郎さんは、その前年に、すでに自宅を新築するという準備の良さでした。

結婚の翌年に美代子さんが生まれ、次いで友紀子さんが生まれて、女性優位の伊藤家が形成されました。新次郎さんは、仕事の関係で家にいる時間が少ないため家のごことは奥さんまかせにな

っています。奥さんは姉さんの商売を手伝いながら、家事はもちろん、付き合いやら娘さんたちの相談など一切を引き受け家庭を守っています。長女の美代子さんは現在高校二年生、性格はおっとり型で進学が就職がまだ決定していない模様ですがそんなことにくよくよせず、現在に最善を尽すというタイプです。次女の友紀子さんは活発型で、家中をにぎやかにしてくれています。趣味は音楽、現在船川中学校で吹奏楽部に所属しており、クラリネットを担当しております（美代子さ

編集後記

長い梅雨がようやく明けましたが真夏日がないまま秋になりそうな気配です。初めての試みとして女性座談会を行いました。女性の皆さんは、現場を現解して頑張ろうと意欲満々です。いま通産省では「企業における女性活用指標」の作成に着手しましたが、当社としても女性の意欲を育て、活用していくことが肝要です。

建設業も四月から四週五休制が実施されました。しかし現場担当者は、仕事が忙しいといつて日曜日も出勤している状態です。確かに現場は忙しいでしょうが、休むことは次に働く活力を養うことなのです。このお盆休みの機会に、どうすれば現場の能率を高め、四週五休制を実現できるかを真剣に考え、工夫してみようではありませんか。